

1 授業実践について

(1) 学年・単元名

第 (6) 学年 単元名 「 私たちの生活と電気 」

(2) 単元学習計画案

学習過程	児童の学習活動	時数
ふれる	・身の回りで使われている電気について、気付いたことを話し合う。	1 時間
さぐる	・つくった電気やためた電気が、乾電池との電気と同じような働きをするのかいろいろな方法で調べる。	2 時間
	・電気は、どのようなものになる性質があるのか、いろいろな方法で調べる。	1 時間
	・豆電球と発光ダイオードの明かりのついている時間を条件を整えて調べる。	1 時間 (本時)
いかす	・風力発電機を作る。	1 時間

(3) 想定される展開

想定される学習活動や児童の様子	想定される指導
<p>○班ごとに結果を用紙にまとめ、結果から分かったことを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豆電球は、○秒 (分) 光り続けていた。 ・発光ダイオードは○ (分) 光り続けていた。 ・豆電球よりも発光ダイオードの方が、長く明かりがついた。 <p>○全体で結果と分かったことを交流し、結論をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豆電球よりも発光ダイオードの方が長く明かりがついていたことから、豆電球の方が、発光ダイオードよりも使う電気の量が多い。 ・発光ダイオードの方が豆電球よりも使う電気の量が少ない。 	<p>※活動をスムーズに進められるよう、役割分担をさせおく。(タイマー、記録、ハンドルを回す)</p> <p>※メトロノームを使って、ハンドルを回す速さを合わせる。</p> <p>○班ごとに結果を用紙にまとめさせておく。</p> <p>○班ごとに実験結果から、結果から分かったことを考えさせる。</p> <p>○全体で結論をまとめる。</p>

2 全体を通しての所感

<p>実験の条件 (時間や回す速さ) を揃えることで、結果を比較しやすくしたり、考察につなげたりできると考えた。考察において、より妥当な考えをつくり出せるような手立てを、他の場面においても考えていきたい。</p>
--